



HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD,333,Yamabuki-cho,shinjuku-ku,Tokyo,Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com info@ifcc1985.com



会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872

JVPF 2013春訪問団

枯葉剤爆弾被害者の今を見る

中南部ダクラク、北部タイビンを訪ねる

今回の訪問団はJVPFとして初めて中南部高原地帯であるタイグエン地方のダクラクを訪れ、それから北部タイビンへと廻った。

団は松浦正美JVPF副会長を団長に福島からの参加者四人を含む総勢八人。

最初に訪問したダクラク省は人口一八〇万人、四四の民族から構成されており、全人口の三〇%が少数民族のこと。人口の規模、面積は福島県の規模と似ている。

省都バンメトートは戦争中、ホーチミンルート(カンボジア側にある)から南部ベトナムに入る要路にあったため南ベトナム軍の基地もおかれており激しい攻防があったところだ。

二つの被害者家庭を慰問した。この省にはまだリハビリ・治療の病院がない。

北部タイビン省は農業が中心の省である。タイビンの枯葉剤爆弾被害者は特徴がある。北部であり枯葉剤爆弾が直接投下されていないにも係わらず被害者が多いことだ。その理由はタイビンは貧しい農業地域であったため戦中多くの若者が中部、南部の戦線に赴き枯葉剤爆弾をあびたこと、戦後帰省し結婚、期待された労働力としての子どもに障害者が激増したこと。

二〇一二年調査で三四、〇〇〇人。直接被災者二六〇〇人、子どもや三世で八〇〇〇人。認定・援助を受けている人二一、〇〇〇人、内直接被害者一六〇〇〇人、子どもや三世が五〇〇〇〇人といわれている。

タイビン省の枯葉剤爆弾被害者の会(VAVA)はベトナムの地方としては最初に設立され、被害者への支援活動が行われている。

ダイオキシンを除くための施設(解毒センター)も出来ていた。この治療を受けた人は「元気になった」とのことだが、人数や程度からしてこれからということだろう。タイビンでも二つの家庭を慰問した。

根本は、争いのない世界を実現するしかないと思う。福島県では原発事故から二年を経たが、政府は早くも原発事故を忘れて、又、「低廉、安全なクリーンエネルギー」として原発を再稼働したい考えだ。

どこか似ている。決してわれわれは忘れてはならない。「NO」を言い続けよう。今回の旅で思った。(福島・半澤義道)



ホーチミン廟前で 2013.5.22

初めて中南部高原地帯で枯葉剤被害を調査する

今回は、昨年冬の南部カントー、ベンチエでの枯葉剤被害状況視察に引き継ぎ、JVPFとして初めて中南部ダクラク省で被害状況を調査した。「今だから」ベトナム各地の状況をしたいという事で計画された。

訪問団の旅程（五月一九日～二四日）は夫々の報告の他、ホーチミン市で解放軍地下司令部ア・クチトンネル、見学、ハノイで越日友好協会との会談、タイビンでVAVAでの聞き取り、JVPF寄贈のリハビリ施設見学などを行ってきた。

戦争終結から三十八年経ってなお

ダクラク省VAVAにて

VAVAとは「ベトナム枯れ葉剤被害者の会」と言うことである。

ダクラク省は中南部高原のタイグエン地方にあり、ベトナム戦争では戦略的な位置にあった。一三〇〇〇平方kmの土地で、西側はカンボジアの国境に接している。一八〇万人の人口で四四の民族が住む。そのうちの三〇%が少数民族。一三区十一市（バンメトト市）の行政区で、バンメトト市少数民族の二〇%が住んでいる。コーヒーとコシヨウが主たる生産物である。

訪問団は五月二一日、副会長のハウ氏から、ダクラク省の枯葉剤被害状況について報告（別掲資料参照）をいただいた。

この後、報告に関し質疑した。

Q・被害者のうち直接、枯れ葉剤爆弾を受けていない人は後から影響が出てきたのだろうか、その比率はどのようなか？

ダクラク省VAVA資料より (2013・5・14)

●ベトナム戦争から38年たったが、環境にも、人間の遺伝のことに大きな影響を残している。その影響は5125人に出ているし、そのうち3796人が従軍していた人だ。5125人のうち、第三世代といわれる人は235人いる。235人の中の一番の年長者は現在17歳になる。

— 国からの援助を受けている人が1484人。

— 従軍者で重度（身体能力欠損81%以上）の人（19人）への援助総額は1カ月489万ドン。（単純に19人で割ると257万ドン≒10000円強になる）。

— 病気で（身体能力欠損81%以下）が仕事に満足に出来ない人が438人いる。彼らには1カ月総額1,541,920,000ドン（注：1人当たり3,520,365ドンになり重症者より多いことになるが資料原文のまま）。

傷病兵で仕事に満足に出来ない120人に対して1カ月220,800,000ドン（1人当たり1,840,000ドン≒7,000円）

子ども（第一世代、第二世代含む）で身体障害で自活出来ない人160人で1カ月186,480,000ドン（1人当たり1,165,500ドン≒4,660円）。

子どもで障害を持っているが生活できる339人に1カ月210,850,000ドン（1人当たり621,976ドン≒3,600円）

この他に、旧正月（テト）にはダクラクVAVAとして1466人に293,200,000ドン（約1,172,800円）を援助してきた。それぞれの区のVAVAからも700ドル（約700,000円）援助した。特別困窮者に13軒の家を援助し510,000,000ドン（約2,040,000円）。薬の援助は20,000,000ドン（約80,000円）

●被害者への支援はまだ不十分である。

被害者家族の70%の人たちが援助しないと生活できない。国としても、子供の生活、健康のことに責任を持っている。国際的には金や設備などもそうだが、被害者が、仕事出来るように、アメリカ政府にも賠償を求めたい。

被害者のために今ベトナムでは、2つ（北のみでタイビンとハノイ・ハドン区）しかない「103病院」という名のリハビリ・治療病院をダクラクにも造りたい。

今、30%～35%の人が生活のための家を必要としている。1軒1億ドン（約40万円）かかるが、その費用の援助を希望する。また薬も値段が高いので必要だ。（要約）

A・一つは「軍隊」として戦争に参加した人自身、そして戦後結婚して枯葉剤の影響をうけて生まれた子供、もう一

つはクロボンというところにアメリカが枯れ葉剤爆弾を落としたが、そこは少数民族のエテ族の人たちが中心に住んでいた。

Q・軍隊でない人たちの被害の状況は？

A・五〇六人の住民が被害を受けた。その場合、国からの援助金は子供だけにしか出ていない。

Q・一〇三病院の質の中身は？

A・二つの目的がある。一つは解毒する。二つ目は両親がなくなった時に誰が子供たちを育てるか。ダクラクは土地があるが、設備は国の援助がないので外国からの援助を受けて建てたいと考えている。そういう施設は、今はないので、発病したら普通の病院に行くが、そこでは治療も出来ないし、復帰の訓練も出来ない。

現在、一〇三病院では、ビタミンCの入った漢方薬を飲んで、サウナに入っている治療（汗を流して解毒していく）のみ。動いて働けるようにしたいと思う。

Q・枯れ葉剤爆弾の被害の認定は誰が行うのか？

A・認定の基準はある。それは兵隊で傷病した人は八〇%以上の被害を受けた人は一カ月二二四万ドン、八〇%以下の被害を受けた人は一カ月一八〇万ドン、その子供たちで八〇%以上の被害を受けた人は八二〇〇〇ドン、それ以下は六四〇〇〇〇ドンの政府からの援助がある。（鎌田）

ダクラク省被害者家庭慰問

生活介護施設の支援が必要

戦後三八年過ぎるがまだまだ影響は続いている、三世代までも影響が出ている、という説明を聞いた後、家庭訪問に出かけた。

●一軒目の家族は、父母と障害を持つ娘の三人家族。

父は一九六五年に従軍し枯葉剤が飛散された地域(クアンチ省に一九六六年～六八年)にいた。枯葉剤が撒かれたときは、昼間、青い実だったものが夜には黄色くなったものを食べたり、水も飲んだ。その後、ハイホンクアンチ間を船で物資を運ぶ仕事に従事した。



場所：ダクラク省エア カウ村① (水が多い村ということ)

父母：父ローさんは1943年生まれ。70歳。1965年軍人としてクアンチで任務(1966年～1968年)につき直接枯葉剤爆弾を被災。1985年に退役。現在は農業。母チャンさんは1948年生まれの65歳。戦争中は青年の奉仕隊としてホーチミンルートの道路建設、補修に従事。

二人は1972年に結婚。

子ども：長女のハンさんは、1994年生まれの19歳。生まれて3カ月後から痴呆、身体不自由の状態。親の言うことも理解できない。今までも治療をしてこなかった、今も治療はしていない。

長男は生まれたときに顎がなく、生後1年で死亡。

援助：政府から父親は月180万ドン。長女は64万ドン。

枯葉剤爆弾を浴びた後、体調は弱くなった。少しは良くなったと思っていたが、今は歯が悪くなり、爪がはがれ、頭も痛く、吐血したり目が悪くなったりと体調は良くない。

一九七二年に結婚し、長男が顎が無い状態で生まれ生後一カ月で亡くなった。

一九九四年に娘が生まれた。娘は生後三カ月頃から手足に異常が出てきた。自分では起き上がることも出来ず反応の無いわが子を父母が世話をしている。

この家族(キン族)は、一九八五年にこの地域に入り、現在、農業に従事しているとのこと。「今、一番何を望みますか」の問いに、「両親は歳をとってきて仕事も出来なくなってきた。この子供をこれから政府が見てくれればいいのだが」とちよつと申し訳なさそうに語る。



場所：ダクラク省エア カウ村にて②

父母：父親のピンさんは1952年生まれの61歳。タイビン省出身。1970年に軍隊に入り1975年に退役。

戦争中タイニン省(この省は南部で大量の枯葉剤爆弾が投下された)に赴任。

その後、体調不良で、爪がはがれ、身体の体力も落ち、もの覚えや理解力が減退。今は、背中が痛みがひどい。

母親は1995年に血液の癌で死亡。枯葉剤散布地にいないため遠因としては考えられない。

子ども：長女(キョウさん)が1976年に生まれたが、頭に脳がなかったこともあり、生後1カ月後に死亡。

次女(フンさん)、1982年生まれの31歳。耳が遠いが、紙に字を書いたものは読める。面白いものがあると反応があり笑みもこぼれる。食べ物はお父さんが食べさせる。

1984年に長男(3番目の子)が産まれ、29歳。2年前まで(27歳)は何の障害も出ず、ホーチミンにある国際人材学校で学んでいた。今は頭の病気で帰省し、3人一緒に住んでいる。

援助：4年位前から国の援助。フンさんは1カ月110万ドン、父親は1カ月120万ドン。

●二軒目の家族は、垣根に囲まれた畑の一角に立つ二階建てのお宅で、父・障害のある娘・息子の三人家族。父は一九五二年生まれ、一九七〇年に入隊し一九七五年に結婚。妻は一九九五年血液の病気でなくなった。

長女は無脳症で生まれ、一カ月で亡くなる。

一九八二年次女が生まれ四肢が短く寝たきり状態。耳が遠いが字がわかると父は話していた。次女の大きく見開いた目が印象的だった。

父は日本円で約五五〇〇〇円、娘は約五〇〇〇〇円の援助を毎月受けている。一九八四年生まれの長男は学校に通っていた。

が数年前から頭に問題があり今は家にいる。

この夫婦はもともとは北部タイビン省の出身だったが、「北から南部に移住すると政府から援助金が支給される」こともあってかダクラク省に居を持っている。しかしこの地方には障害者施設や訓練・就労施設が無いとのこと。

年老いていく親が気遣うことは、ひとりでは生きて行けない我が子の世話を誰に託したらいいのかという不安ではないだろうか。

継続した生活支援は勿論だが、時間の経過と共に障害者の生活介護施設の支援が必要と感じた。(木村 公)

今尚、重くのしかかる重症者たち

北部タイビン省で追跡

タイビン市での家庭訪問

17の子らを抱えて

タイビン市チャンラン地区①

ここにはこの地区の会の班長さんであるドン氏が同行する。

お母さんはヴァイさん、一九五九年生まれの五四歳。お父さんは一九五四年生まれの六〇歳。一三年間クアンナムやダナンの戦場（一番激しい戦場だった）で軍務に服していたとのこと。今日は「お腹が痛く席を立てている」ということで、お名前も聞けず、お会いすることが出来ず、もっぱらお母さんとの対話である。



一九七六年に結婚。一九七九年にヴァイ・ダン・ファ君が生まれる。現在三四歳（今日、私たちが直面している子である。生まれて直ぐから全身麻痺が始まり、話せない、聞こえない、自分で食べられないと言う状況。どんなときにも「泣くこと」で全てを訴える。手でもの

を掴むことも出来ない、大小便もベッドの中。母親に対しては笑顔を見せることはある。ファ君の部屋は別室になっており、そこで全てが処理できるようにになっていた。

四人兄弟だが、この子が一番上で、一番症状が重い。この子を含め上の三人の男の子たちは坐骨神経が正常ではない。次男は、仕事は出来たが、三男は今、父親と一緒に店を見てもらっている。四番目の子の長女は今、高校二年生である。

国からの援助金は、二、三年位前から出ているが、一カ月一一万ドンがファ君に出ている。お父さんには、これも二、三年位前から年金を別にして一八四万ドンが出ている。お父さんは解毒センターで治療をしている。

タイビン市チャンラン地区②

お父さんはドン・ツン・マイさん、一九五二年生まれの六一歳。クアンチーで一九七一年から七五年まで服役している。一九七五年末にここに帰り結婚。お母さんは一九五五年生まれの五八歳。戦争には行かなかったが、うつ病のような症状があり、目も悪く、薬を服用している。今日は市場に肉や野菜を売りに行っていて、留守である。

今日お会いしている被害者は、ドン・ウ・ニャト君、一九七七年生まれの三六歳。三人の子供がいるが一番上。親の話していることは全く分からず。下の次男（一九七九年生まれの三四歳）、三男（一九八三年生まれの三〇歳）は、一応元気で仕事をしている。ニャト君は、立つことが出来ても歩くことは出来ず、気に食わないことがある時には自分で自分の身体を痛めつけて、いつも生傷が絶えない。枯れ薬剤に対する治療は全く受けていず、二〇一二年に目の手術をしたこと、額の傷を治すために通院したくらいだ。この子の出生後、悲しくて次の子はいらないと心から思ったりもした。お父さんの治療薬としてお菓



療薬としてお菓

教育支援プログラム

バンメート市民族中学校訪問

二〇一三春訪問団は、五月二日、ダクラク省で少数民族学校を訪問した。

BAN TO CHUCと言うこの学校は、少数民族の中学校である。建物も私たちが最初に支援したハノイ近郊にあるハタイ省の高等学校などとは比べ物にならないほどの立派さである。この国の学校制度は小学校五年、中学校四年、高等学校三年である。

ダクラク省はベトナムの中心的民族キン族をはじめ四民族が住んでいる省であり、省人口の三〇%が少数民族とのこと。フランス植民地時代まではヘデ族を首長とする王国があった。現在でもエデ語の初等教育教科書があり、ムノン語の教科書も製作予定とかいわれる。

子の缶に一杯詰まった薬を見せてもらったが、これは神経のための薬なので全部自費だと言う。政府からの援助金は、お父さん自身一カ月一八四万ドン、ニャト君は一カ月九八万ドンを貰っているとのこと。

もうお昼に近い時間、ニャト君は私たちを前にしてウトウトと眠りに入る。お父さんも心得たもので、何の気を使うこともせず、大きな身体の彼を自分の足下にノビノビと寝かせる。もう私たちの退出の時間でもある。

お父さんのお仕事の証しが、語り合った部屋の前に実に雑然と並べられている。見ると廃品回収されてきた諸々の品物である。また別棟には立派な二階建ての本宅が建てられていた。（細谷久美子）

まず、ズン学校長（数学を担当）による参加されている先生方の紹介から始まり、続いて「学校について」の説明がされる。

学校の創立は、文部省の決定で二〇〇八年に創立され、二〇〇九年から授業が始まった。二七人の先生と一五八人の学生（二〇二人が女性）がいる。学生はほとんどエデ族の少数民族で、村から優秀な学生を選んで勉強できるようにしている。もちろん入学試験を受けて入ってくるが、今、一年生から三年生までいる。

ダクラク県にはこのような学校が四校あり、一三区+一市（バンメート市）にある。中学を卒業したら、入学試験を受けて高校へ入る。

——学校には、教室七つ、図書室一つ、事務室五つがあり、寮には二〇の部屋があり、もちろん台所もある。今後必要とするものは、視聴覚室、体育場、学生の図書館などが欲しい。



中学校の先生たちと

先生の勉強や先生が教えることは、教育省の授業方針に基づき実施している。三年生の中学生のうち卒業できる子は九八%いる。ここでは生活面の教育もする。怪我や暴力

に対しても指導する。もちろん健康面での指導もだ。

——少数民族の子供たちを教えていて一番大変なことは、国語（ベトナム語）の発音が違うこと、レベルが違うので分かるまでに時間がかかることだ。

——全国の教師の賃金は同じだが、少数民族の学校にはプラス七〇%の賃金保障がある。学生は全員、国からの奨学金を貰う。その額は先生の賃金の八〇%に相当する。一カ月八三万ドンでそこには食事代、教科書代、文具代などが入っている。

——お願いしたいことは、一つはベトナム学生と日本の学生の交流をできるようにしたいと思う。（細谷久美子）

広がりと継続の活動の輪

ふえみんツアー

タムキーの枯葉剤被害者を訪ねて

ふえみん婦人民主クラブ・渡辺美里

「ふえみん婦人民主クラブ」はダナン市にある「希望の村」を支援して一七年になる。私は、数年前クアンナム省に住む、卒業生の叔母の家を訪問した時の衝撃が忘れられない。子ども六人中三人が枯葉剤被害者で、全く歩けない。近くには通える施設もなく一日中所在無げに座っているという。枯葉剤被害は、遠い話ではなく身近にいることを知った。別の子の兄二人も同様で、母が毎日背負って学校に連れて行くという。今までダナン市の施設には何度か訪問したことがあるが、多くの子どもたちの故郷、タ



施設に入所した子どもたち

ムキー市にVAVAの新しい施設ができることがわかり、五月末ふえみんベトナムツアーで訪問した。ここは、ベトナム農業開発銀行の支援で、今年五月に開所したばかりで、まだがらんとしている。私たちは職業訓練のためのミシンなどを贈ることにした。一〇〇人入所を目指しているが、今は三四人。将来は送迎用バスを購入して、遠くからも通えるようにしたい、と

所長さんは言っていた。次に被害者のお宅を二軒訪ねた。一人目の方（六六歳）は、出征していた時、水を飲んでいた。いつも頭や全身が痛い。子どもは四人中三人が被害者。被害のなかつた子の子どもは目が見えない。二人目の方（七一歳）は、解放軍として参加し、山の水で顔を洗っていた。一九七九年から症状が出始め、今は目玉が落ちそうなくらい飛び出し、皮膚のかゆみが酷く、蚊に刺されればなしのようだと、言う。長男も被害者だが、恥ずかしいからと言って顔を出してくれなかった。

戦後四〇年になるのに、被害は続き、新たな被害者が生まれている事実を怒りを覚える。一方、戦争のトラウマを引きずりながら、今支援活動をしている元アメリカ兵士の話が心にしみた。

夢と希望をかなえ、可能性を開くささやかな支援

クアンチ省で少数民族出身高校生奨学金

夢と希望をかなえ、可能性を開くささやかな支援

可能性を開くささやかな支援

広島HVPP

遅くなりましたが、さる四月四日、五期目となる奨学金を届けてきました。

二〇〇九年に始めたクアンチ省少数民族寄宿高等学校への「奨学支援活動」は、五期目に入っています。

旧南北ベトナム国境線（一七度線）に位置するクアンチ省は、ベトナム戦争が最も激しく戦われ、今なお枯葉剤や不発弾による深刻な被害が続いています。

平和で豊かな未来を創造する人間の力は教育によって養われます。しかし、あまりにも大きく多くの負の遺産を抱えるクアンチ省の教育環境は充分ではありません。特



に少数民族の子どもたちは能力も意欲もありながら、就学できない状態にあります。

ともに戦争による悲惨な体験を持ち、願いを同じくするクアンチ省の子どもたちの夢と希望、そして可能性をかなえるために

昨年、第一期奨学金が卒業し、現在、第二期、第四期までの計六〇名の奨学生に支援を行っています。

卒業した「第一期奨学生」の進路は、フエ国家大学に一名、フエ師範大学二名、サムソン民族予備大学五名、ヴァイン大学一名、ジョリン経済財政大学一名と、計一〇名が大学に進学し、残り一〇名は少数民族のための職業専門学校に進みました。

この子どもたちが、ベトナムの豊かな社会づくりを担い、日本や広島との友好の架け橋として活躍してくれると確信しています。

創立五周年式典が開かれる

ベトナム中部クアンチ省との友好活動を続けている広島ベトナム平和友好協会（HVPP）はさる五月二六日、東広島市内で創立五周年の式典を開催した。当日は東広島・蔵田義雄市長、在大阪ベトナム総領事



今年卒業生の進学希望大学で最も多かったのが医科大学で、三名。次に多かったのが、師範大学で二名。その他には、陸軍大学、人文社会大学、貿易大学、公安大学、新聞大学、ホンブン大学、ハノイ大学、ハツカ大学、薬科大学、自然科学大学等でした。特に、ハノイ大学志望のホー・チャー・ヒエ

館カオ・アイン・ジュン領事など六〇人が参加。河内昌彦会長は「多くの人の協力で心温まる活動を続けている」と挨拶。今年日越国交四〇周年で記念訪問団を計画中。

フット省少数民族出身高校生奨学金

第三期生、一五名の卒業を祝って

NPO法人JVPF副会長 松浦正美 (NPO法人ウォーター・ビジョン理事長)

五月二三日(木)、一五名の第三期フット省少数民族高校奨学金生に卒業記念品の贈呈と最も成績優秀な生徒二名に特別奨学金を贈呈するために、フット省少数民族高校を訪問しました。

二〇〇八年の夏、奨学金の授与の打合せに訪問して以来、毎年二回訪問しているの、今回で一回目となる訪問。卒業生に記念品を贈呈するための訪問は、一昨年、昨年に続いて三回目となりました。

ンさんは、大学で、日本文化について学びたい希望を持っていました。こうした希望の学生は、今年を含めて四五名の奨学金を送り出してきましたが、初めてのことで、大変嬉しく思いました。これからも多くの奨学生が、日本に興味を持ってもらうことを希望したいと思います。

村山記念JVPF 日本語学校第四期修了式

修了式はトゥン副校長から「今日は、二人の修了生を迎える。今まで八三人の修了生を出した。そのうち五人が日本の大学に入学し留学生として学び、九人の修了生がベトナムの大学に入っている」との開会の辞で始まった。

続いてJVPFを代表し松浦副会長から「二人の方の修了おめでとう。私たちはベトナム戦争の害を受けた枯葉剤の子供たちを支援する活動と同時に文化的な交流が進められ、その発展がこの学校への支援であり、少数民族高等学校への支援、いけばな展などの活動に広がっていった」と越日友好の歩みが語れた。

この後、お二人に修了証書が授与される。ちなみにこの日は、今まで八三人の修了生がいるが、そのうちの師範大学に行っている修了生も参加している。

〔修了生の二人の言葉〕

ワン君(男子生徒)「二年生の時に村山学校に入学した。今は修了できて夢みだ。勉強中とはとても厳しかった。漢字の読み書きが一番難しい。文法も使い分けるのが難しいが面白さもある。奨学金をもらえて、

ここで勉強できたことは本当に幸せなことだ。出来れば日本に留学したいと思う。A4を持っている。(彼はお父さんと共に出席) イエンさん(女子学生)「私は日本語を全く知らない子供だったが、村山学校で三年間学ぶことが出来た。夢だった日本語を学ぶことが出来た。漢字もとても美しい。知識もたくさん得た。A3を卒業し、A2に挑戦したいと思っている。今はベトナムの師範大学に入りたいと思っている。(彼女は両親と共に出席)

最後に鎌田理事長から「日本とベトナムの関係振り返ると、うまくいっている時、大変な時といるいろいろあったが、今は緊密な関係が高まっている時だ。日本で学ぶベトナム学生が多くなった。だからこの学校で

きっかけを掴み、将来に役立つようにがんばって欲しい。これから、日本で勉強したい学生の援助もしていきたい」と閉会の言葉に合わせて提起された。



修了生(左側2人)を祝する先輩たち

終了式のあと、留学のための懇談会が行われ、提携大学・明大、福岡大学、日本語専科についての紹介、列席されていた東京国際大学付属日本語学校の先生からの学校紹介が行われた。

◆◆◆ 掲示板 ◆◆◆

- JVPF 財政の健全化のために会員登録を促進中。友人、知人への会員拡大の御協力を。
- 埼玉 JVPF は「中部クアンナムでの枯葉剤爆弾被害者支援」の日越国交樹立40周年記念訪問団を7月31日より計画。
- 継続してきているタイビン省リハビリ施設での「タイビン・ボランティア」が8月17日(22日)、取組まれる。参加者募集中(同封チラシ参照)。
- 8月下旬、JVPF 福岡支部はハノイ大学と提携し「日本語・文化・教育促進センター」の開設を予定。
- 日越外交関係40周年イベントが9月
- 20日、ハノイで開催される。JVPF に招待状が届いており、代表が参加予定。
- 広島 HVPF は10月末、日越国交40周年記念訪問団を計画。
- 2013 ベトナムアンサンブルチャリティコンサートが10月開催される。開催地が不足しており、開催地紹介をお願い中。
- JVPF 2013 冬訪問団は12月上旬に予定中。粘り強く「枯葉剤爆弾被害」を追跡調査していく。
- 鹿児島 JVPF は、少数民族高校生奨学金を中南部高原地帯で準備中。

第六回総会報告

さらに多面的な 交流活動の 発展に向けて

さる六月二十五日、東京において第六回総会が開催され二〇一二年活動及び同計算書、二〇一三年活動予定及び同計算書、第五号議案「役員補充に関する件」が討議され満場一致可決されました。総会には来賓として駐日ベトナム大使館よりグエン・フォン・ホン公使参事官に臨席いただき、「今年は日越国交四〇周年で多くの交流事業が行われるが、その中でもJVPFがベトナム枯葉剤爆弾被害者支援を長年続けていることは大きな意義があり感謝の気持ちをお伝えしたい」との挨拶をいただいた。



2012年度事業報告

【組織活動】(要旨)

1、NPO法の改訂に伴い、二〇一二年四月一日付で、これまで理事全員にあった代表権を理事長一人にする手続きをとった。

2、同時にNPO法改訂に伴い、第五回総会の議を経た定款改訂の認証手続きをし、二〇一三年三月一日付で認証を受けた。

以下略

【事業】(要旨)

1、教育支援事業(1)——少数民族出身高校生奨学金支援
フット省で実施されていた事業は、NPOオーナービジョンを主管にして二



グエン・フォン・ホン公使(中央)を囲んで

ニンビン省(NGO時遊人(主管)も四期が実施された。2、教育支援事業(2)——村山記念JVPF日本語学校
二〇一〇年九月から支援のための「新三か年計画」

〇〇八年から、一期一五人×三か年を三期(二〇一〇年度開始)までの計画が進められ、二〇一二年の新生年から対象を一〇人とし継続された。二〇〇九年度から開始されたクアンチ省(広島ベトナム平和友好協会を主管)、

に基づきスタートさせた「日本語修学高生育英基金」事業は二〇一二年で最終年度となり、二〇一三年八月をもって終了となる。

「新三か年計画」は一期…一、三三二、〇八〇円、二期…三二八、七五〇円、三期…四〇〇、〇〇〇円の奨学金を実施してきた。

この間の修了生は二〇一一年五月、一六人、二〇一二年五月一人、二〇一三年五月、二人。

現在(二〇一三年一月時点)の在校高校生は一年生八人、二年生〇人、三年生二人。有料社会人コースが一〇〇人在籍、二〇一二年一二月の日本語検定試験は五人が受験した。

スタッフは専任教師一人、臨時教師四人、職員二人、日本人教師一人の体制で運営。

「新三か年計画」による奨学金支援は今年の八月で終了となり、今後の自立運営へ向けた方策に沿い、学校経営を継続していく。

3、国際協力事業(1)——枯葉剤被害者

| | |
|-----------|-----------|
| 経常収益 | 3,514,088 |
| 受取会費 | 812,500 |
| 寄附金 | 0 |
| 助成金 | 0 |
| 事業収益 | 2,581,563 |
| その他 | 120,025 |
| 経常費用 | 3,644,781 |
| 事業費 | 2,508,977 |
| 管理費 | 1,135,804 |
| 当期経常増減額 | -130,693 |
| 経常外収益 | 0 |
| 経常外費用 | 0 |
| 当期正味財産増減額 | -130,693 |
| 前期繰越正味財産額 | -145,618 |
| 時期繰越正味財産額 | -276,311 |

支援のためのキャンペーン活動

枯葉剤爆弾被害者追跡記録DVD『それでも私はいきてゆく』の頒布活動や、訪問団派遣による現地調査及び被害者家庭慰問を実施してきた。

特に、二〇一二年冬友好訪問団(二月)はJVPFとしては初めてベトナム南部のカントー市、ベンチエ省で枯葉剤爆弾被害状況を調査。また、広島HVPFはクアンチ省で支援活動(四月)を、さいたまJVPFは中部クアンナム省で枯葉剤被害者への家屋建設支援、医療器具寄附の活動(八月)を行った。

さいたまJVPFは十一月、中村悟朗写真展「枯葉剤とベトナム」(同実行委員会)開催に協力してきた。

4、国際協力事業(2)——枯葉剤爆弾被害者への「自立支援プログラム」
廃品ビニール再利用「エビストラップ」製作支援、「刺繍絵」製作支援の具体化は、現地の体制が整わず刺繍絵の買取支援が実現できず。

続けてきているタイビン・リハビリ施設での「滞在ボランティア活動」(二〇一

| | |
|------------|----------|
| 資産合計 | 448,689 |
| 1 流動資産 | 448,689 |
| 現金預金 | 38,689 |
| 未収金 | 410,000 |
| 2 固定資産 | 0 |
| 負債合計 | 725,000 |
| 1 流動負債 | 725,000 |
| 未払い金 | 120,000 |
| 前受け金 | 55,000 |
| 短期借入金 | 550,000 |
| 2 固定負債 | 0 |
| 前期繰越正味財産額 | -145,618 |
| 当期正味財産増減額 | -130,693 |
| 正味財産合計 | -276,311 |
| 負債及び正味財産合計 | 448,689 |

2013 ベトナムアンサンブル公演日程

※コンサート回数が不足しています。開催に御協力お願いします。

| | |
|-------------|------------------------------|
| 10月02日(水) | 特別公演・わらび座(秋田)/わらび劇場(700) |
| 10月03日(木) | 山形・白鷹町/白鷹町文化交流センターホール(200) |
| 10月04日(金) | 東京・国分寺市/いずみホール(370) |
| 10月05日(土) | 長崎・諫早市/ウエスレヤン大学西山ホール(300) |
| 10月06日(日) | 長崎市/NCC&スタジオ(500) |
| 10月07日(月) | ※長崎くんち祭り特別参加 |
| 10月08日(火) | (調整日) |
| 10月09日(水) | 仙台市/太白区文化センター楽楽楽ホール(500) |
| 10月10日(木) | 青森市/AUGA・AV多機能ホール(300) |
| 10月11日(金) | 岩手・奥州市/Zホール中ホール(500) |
| 10月12日(土) | (未定) |
| 10月13日(日) | (未定) |
| 10月14日(月・祭) | (調整日) |
| 10月15日(火) | 新潟市/新潟県民会館小ホール(300) |
| 10月16日(水) | 金沢市/石川県教育会館ホール(344) |
| 10月17日(木) | 富山市/ポルファートとやま多目的ホール(300) |
| 10月18日(金) | 埼玉・富士見市/鶴瀬コミュニティセンターホール(280) |
| 10月19日(土) | 神奈川・相模原市/相模原南市民ホール(394) |
| 10月20日(日) | (未定) |
| 10月21日(月) | (未定) |

二年八月)は、参加者が少ないでしたが被害者の心のケアとして意義ある活動となった。

5、国際協力事業(3)——ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート

二〇一二年度は九州、中国、四国、近畿、関東地区で一五会場の公演を行うことが出来ました。

6、国際協力事業(4)——団体・企業の交流支援事業及び事業展開への協力

①広島県議団のクアンチ省訪問に協力。

②九月にハノイで開催された明大マンドリン倶楽部の友好演奏会に協力。

③駐日ベトナム大使館が主催したイベント「ミート・ベトナム」(九月)に協力。

④ベトナム農民組合の訪日(十一月)に際し、兵庫の今西様の協力で「有機農業」農場の視察を実施。

7、国際交流事業(1)——いけばなデモンストラーション

二〇一二年は一月三〇日(ニンビン省)、二月(ハノイ市)でいけばな交流を実施。二〇〇八年以来、都合四回目。

今回も草月流いけばな作家の州村衛香先生に御協力をいただいた。

8、国際交流事業(2)——村山記念JVPF日本語学校高校生夏季日本研修

二〇一二年九月、北海道の(有)北海ファームの協力で北海道で農業体験、東京で日本語研修という体験プログラムで日本語学校修了生六人が来日した。

9、国際交流事業(3)——竹籐工芸指導交流

ベトナムの竹籐工芸技術者への技術指導の依頼を受け、一〇月下旬、工芸作家・毛利健一さんの協力を得て、ハノイで竹籐工芸の教室が開催された。

2013年度事業計画

【組織活動】——略

【事業】(要)

1、教育支援事業(1)——少数民族出身

高校生奨学金支援

フット省、クアンチ省、ニンビン省ではそれぞれに主管団体が管理運営をして進めていくこととし、あらたに支部あるいは友誼関係組織のベトナム側地方組織との縁組をすすめ、それぞれに奨学金支援をすすめていくことにする。

2、教育支援事業(2)——村山記念JVPF日本語学校

「再建方策」に基づく事業を展開し経営健全化につなげる。

またJVPF福岡支部がハノイ大学と進めている「日本語・文化・教育促進センター」の開設に村山日本語学校を通じて協力していく。

3、国際協力事業(1)——枯葉剤被害者支援のためのキャンペーン活動

二〇〇八年に取材製作した枯葉剤爆弾被害者追跡記録DVD『それでも私は生きてゆく』は今年で五年目となりますので、五年毎の追跡記録のための取材を実施したい。

同時に、「二〇一三春友好訪問団」(五月)、二〇一三冬友好訪問団(二月)で、放置されている枯葉剤爆弾被災地や被害者状況調査、慰問活動をしていく。

4、国際協力事業(2)——枯葉剤爆弾被害者「自立支援プログラム」

刺繍絵製作支援、リハビリ施設での「滞在ボランティア」を計画していく。

5、国際協力事業(3)——ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート

二〇一三年度は東日本を中心に開催していきます。今年も一五回開催を目途に計画していく。

6、国際交流事業(1)——いけばな交流

日越外交関係樹立四〇周年の年でもあるので、昨年を引き続き、五回目となるデモンストラーションを計画していく。同時に、いけばな交流を通じた支援金創出のためハノイ市女性企業家協会と協力し「いけばな交流基金(仮称)」設立を目指す。

7、国際交流事業(2)——村山日本語学校高校生夏季日本研修

8、その他の事業(1)——会員及び企業の交流支援事業及び事業展開への協力